



## 本号の目次

1. ご挨拶
2. IRPA14 参加登録
3. IRPA テクニカルツアー
4. 健康管理における放射線防護文化に関する IRPA/WHO/IOMP イニシアティブ
5. NEA ステークホルダ対話

## IRPA 出版委員会

委員長: Christopher Clement  
副委員長: Bernard LeGuen  
会報編集  
Chunsheng Li, Ali Shoushtarian  
加盟学会リエゾン  
Adelene Gaw  
ウェブサイト管理運営  
Andy Karam, Chris Malcolmson  
ソーシャルメディア管理運営  
Sven Nagels, Chris Malcolmson  
メディア情報収集・提供  
Melanie Rickard  
Ralph Thomas  
Sven Nagels  
Young-Khi Lim  
Duncan McClure  
Daisuke Sugiyama  
Cheng Wei

## ご挨拶



### 会員各位

幾つかの注目すべき明白な成果とともに、集約的な 1 年が終わろうとしています。私たちは、放射線防護の専門家からの国際的な声になるというビジョンを果たすことで、更なる一步を踏み出しました。私たちは効果的な組織により近づくことができ、新たな IRPA 加盟学会を迎え入れることができました。そして本組織の会員数は約 18,000 名にのぼり、強力な放射線防護コミュニティへと成長しました。

特に、医学を主導する放射線防護文化や、関連学会の皆様方によって当該言語に翻訳されている IRPA 会報を挙げたいと思いますが、日頃の IRPA の様々な活動に対するすべての皆様方のご協力とご支持に感謝申し上げます。

来年は IRPA 設立 50 周年記念の節目であり、特にやりがいのある 1 年となるでしょう。私の視点からは長い成功の歴史に対して誠実に恩義と感謝を表したいと思えます。また、この重要なイベントを、南アフリカ共和国ケープタウンで開催される IRPA14 会期中の 2016 年 5 月 11 日に皆様方と祝えることを楽しみにしております。

今後の皆様方のご健康とご多幸、益々のご発展を祈念いたします。

Renate Czarwinski  
IRPA 会長

### 国際放射線防護学会



<https://www.facebook.com/IRPA0>



<https://twitter.com/IRPA>



[www.irpa.net](http://www.irpa.net)

この“IRPA 会報”の日本語訳は、IRPA の公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

## 2016 IRPA 会議

[www.irpa2016capetown.org.za](http://www.irpa2016capetown.org.za)



### 会議事務局

Turners Conferences

Po Box 1935, Durban 4000, South Africa,

電話 +27 31 3688000

Eメール: [info@irpa2016capetown.org.za](mailto:info@irpa2016capetown.org.za)

## IRPA14 参加登録



IRPA14は、電離及び非電離放射線が利用されている全ての領域における放射線安全管理の主たる世界会議です。IRPAは、IRPAを含めた関連学会が50年以上にわたり続けてきた放射線の実務的かつ安全な利用及び科学に対する本質的な貢献に感謝し、ケープタウンにおいて50周年を祝います。

会議への参加登録は、すべてのカテゴリで始まっています。下記URLより登録してください。事前登録により参加登録費が減額されます。

<http://www.irpa2016capetown.org.za/registration.asp>

### 締切日:

事前 (Early) : ~2016年1月31日までの支払

事前 (Standard) : 2016年2月1日~2016年3月31日までの支払

事前 (Late) : 2016年4月1日~2016年5月1日までの支払

当日: 2016年5月1日以降の支払

### 支払方法:

参加登録費は下記URLに記載されている参加登録フォームにご記入の上、南アフリカ共和国の通貨ランド (ZAR) にてお支払いください。支払は、ウェブサイトで会議に登録する際にもオンラインで可能です。

[www.irpa2016capetown.org.za](http://www.irpa2016capetown.org.za).

クレジットカード (MasterCard、Visa、AmericanExpress、DinersCard) もしくは銀行振込による支払が可能です。

参加登録や支払方法の詳細は、下記の公式ウェブサイトを参照ください。

<http://www.irpa2016capetown.org.za/registration.asp>

Organised in Collaboration with:



共催:

## IRPA14 テクニカルツアー



### 会期前のテクニカルツアー

参加者は Necsa へのツアーと同様に、テクニカルビジットプログラムに含まれる様々な施設を訪問することができます。これらの訪問は、2016 年 5 月 6 日（金）に先立って催される予定であり、日帰りの訪問もしくは観光ツアーの一部として参加することができます。Necsa への訪問を除き、全ての訪問はケープタウン国際会議センターから出発する予定です。

### Koeberg 原子力発電所（日帰り）

日時: 2016 年 5 月 6 日 / 08:00~17:00

Koeberg 原子力発電所ツアーに含まれる施設は以下の通り。

- 低/中レベル廃棄物貯蔵施設
- 防災対策コントロールセンター
- タービン建屋
- 冷却水取水池及びろ過システム
- ビジターセンター
- 放射線防護訓練施設

### Groote Schuur and Tygerberg 病院（日帰り）

日時: 2016 年 5 月 6 日 / 08:00~17:00

訪問者には "Heart of Cape Town" ミュージアム（入場料含む）へのツアーが課されます。ミュージアムは初めて心臓移植が行われた Groote Schuur 病院の敷地周辺に位置します。ツアーには放射線治療部門への訪問も含まれます。

### iThemba 研究所

日時: 2016 年 5 月 6 日 / 13:00~16:00

加速器科学の iThemba 研究所は、国立研究財団により管理され、多くの専門領域を探求する研究所群です。Western Cape と Gauteng の 2 カ所にあり、これらの施設は以下の研究を行っています。

- 粒子線の基礎及び応用研究
- 粒子線によるがん治療
- 加速器により製造された放射性同位元素の核医学及び研究への供給

### South African Nuclear Energy Corporation (Necsa)

1 日目: OR Tambo 国際空港から宿泊先（Holiday Inn Johannesburg Airport）へ移動。

この 2 日間のツアーでは、OR Tambo airport から 70km のところに位置する Necsa's picturesque Pelindaba Site の様々な原子力施設を訪問する機会が与えられる予定です。

Necsa は、原子力や放射線科学の領域での研究及び開発の遂行と促進を担う国有企業です。同様に、国内外の他機関との連携、ウラン濃縮を含む原材料の加工も担っています。

より詳細な情報は [www.necsa.co.za](http://www.necsa.co.za) をご覧ください。

## IRPA14 テクニカルツアー（続き）



訪問に含まれる予定の施設は以下の通り。

- SAFARI-1: Research Reactor: Necsa が所有・運営している 20 メガワットの tank-in-pool 型研究用原子炉。
- NTP Radioisotopes SOC Ltd: 放射性産物と医療、生命科学、産業へのサービスを担う。Necsa は、アフリカ国内の最大の医療用放射性同位元素の生産者であり、さらに 99Mo（がんの診断・治療に用いられる医療用放射性同位元素）の重要な国際的供給者である。数百万人が、SAFARI-1 Research Reactor によって生産された医療用放射性同位元素の恩恵を享受している。
- Pelstore: Necsa が運営する施設から排出される全ての固形放射性廃棄物の処分前の作業、さらに Necsa's decommissioned enrichment programme から排出される全ての固形放射性廃棄物の中間貯蔵を担う。巨大な施設は 65,000 ものスチールドラム缶を貯蔵しており、Vaalputs 放射性廃棄物処分施設に輸送される廃棄物の再包装や発送、分割ドラム走査などの様々な作業が行われている。
- Necsa: Emergency Control Centre: Necsa の防災センターは、それぞれの役割を多彩に訓練されたチームにより運営されています。防災サービスは、同様に地元自治体にも供給されています。センターは FIFA 2010 World Cup の際に改修され、FIFA 2010 World Cup、COP 17、AFCON 2013 のような幾つかの重要なイベントにおいて、国家の原子力安全と防災拠点として成功裏に使用されてきました。
- Necsa Visitor Centre: 公衆の原子力科学と技術への理解を促進し、公衆及びそのステークホルダーとの日々のコミュニケーションを促進するために用いられてきました。

テクニカルツアーの詳細と予約に関する情報は以下の URL をご参照ください。

[http://www.irpa2016capetown.org.za/Tours/tours\\_Technical.asp](http://www.irpa2016capetown.org.za/Tours/tours_Technical.asp)

## 健康管理における放射線防護文化に関する

### IRPA/WHO/IOMP イニシアティブ

2014年に発刊された放射線防護文化を醸成するための指針に続いて、IRPAは、IMOPとWHOと協力して、健康管理の設立における持続可能な安全文化計画の一部として、放射線防護文化の確立と維持のためのガイダンスを提供する枠組み文書を構築しようという展望のもと、すべての利害関係者の意見を把握するための新しいイニシアティブを立ち上げました。この新しい計画の第一歩は、二つの地域ワークショップの開催でありました。第一回はアルゼンチン・ブエノスアイレスでラテンアメリカの国々の貢献も得て2015年4月に、第二回はジュネーブで欧州各国と2015年12月に、健康を専門とする部門（放射線科医、診療放射線技師、医学物理士、歯科医、小児科医）や規制機関、医療当局、製造業者、患者会の代表者を含めて開催されました。目標は、以下に示すような、健康管理における放射線防護文化のフィードバックと主要な要素を集めることでした：

- 認知向上と姿勢確立
- 管理の RP と QA システム、強力なリーダーシップと RP への関与とともに
- 事象の報告、学習、そして改良
- 製造業者の役割の強化（利害関係者の関与）
- 専門家集団のさらなる関与（利害関係者の関与）

目標はまた、診断放射線医学や撮像に補助された介入、放射線治療、核医学、そして組織的な課題からの例題とともに、全大陸で強力な文化を確立し、維持することでもありました。この領域はまた、放射線防護文化を改善させるために、患者をいかに参加させるか、そして、医学の品質保証計画における放射線防護文化の程度を評価するためのツールや尺度をどのように開発するか、ということについても取りあげて考えることになるでしょう。

様々なワークグループで、以下に示すような質問が討論され、詳細に述べられました。

- 健康管理における放射線防護文化は、患者安全や健康管理の安全文化といったより幅広い概念とどのように適合するか。
- 健康管理における放射線防護文化の倫理的で法律的な課題には何があるか。その他の医療分野／規律における安全文化と関連して、倫理的で法律的な課題と類似した点や異なる点は何か。
- 健康管理において放射線防護文化を構築するとき、子どもの防護についてどのように言及するべきか。
- 健康管理における放射線防護として我々は何を達成したいのか。
- 健康管理における放射線防護文化の現状は我々の目標に対してどうか。
- 医療スタッフと患者の両方を参加させ、安全に対する彼ら個人のアプローチに肯定的に影響を与えるにはどのようにすればよいか。

この計画の究極の目的は、最初のワークショップの間に以下のモットーを通じてうまく要約された。

“我々の病院では、放射線の効果的な利用を確かなものとし、患者と我々のスタッフを防護するために、チームとして働いている。”

IRPA14 は、これらの会議の結果を発表して会合の参加者とともにも今後についてさらに議論するための機会を提供する。

Bernard le Guen

IRPA 総務理事



## NEA ステークホルダ対話

OECD 原子力機関は、国際放射線防護学会（IRPA）と共催で開催される、若手と年配の専門家と研究者のための経験と教訓をテーマとした一連のステークホルダ対話ウェビナー2016 に、喜んで皆様を招待いたします。

このウェビナーでは三つのセッションが予定されています：（1）2016 年 2 月 17 日（13:00-15:00、パリ時間、UTC+1）：社会に役立つ放射線防護：ステークホルダ関与の概観；（2）2016 年 2 月 24 日（13:00-15:00、パリ時間、UTC+1）：複雑な放射線防護状況におけるステークホルダ対話の経験；（3）2016 年 3 月 2 日（13:00-15:00、パリ時間、UTC+1）：ステークホルダ間の交流を発展させ、防護活動の実践を促進するためのソーシャルネットワークとソーシャルメディアの使用

このウェビナーはすべて英語で実施される予定です。参加者はおよそ 800 名までに限られます。参加費はかかりませんが、[www.oecd-nea.org/rp/workshops/stakeholder-dialogue2015](http://www.oecd-nea.org/rp/workshops/stakeholder-dialogue2015) から事前登録が必要です。登録締切は 2016 年 1 月 31 日です。

